

第 2 学 年  
文 系

# 国語科年間指導計画【2年生文学国語】

<b>■単位数</b>	<b>■使用教科書</b>	<b>■使用副教材</b>
2単位	文学国語（筑摩書房）	熟語を音訓から学ぶ 新版・品詞別・類出漢字マスター3000(尚文出版)、国語類出問題1200(いいずな書店)

**■目標**

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

**■内容**

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使いに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。
  - イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
  - ウ 文学的文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。
  - エ 文学的文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。
- (2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特徴について理解を深めること。
  - イ 人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。  
(思考力、判断力、表現力等)

**A 書くこと**

ア 文学的文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。

イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。

エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の長所や課題を捉え直したりすること。

**B 読むこと**

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。

イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。

ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。

エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。

オ 作品に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。

カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深めること。

キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のもの見方、感じ方、考え方を深めること。

**■評価の観点とその趣旨**

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
(2) 思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

**■指導計画**

月	単元名	知識及び技能				思考力、判断力、表現力等								言語活動					教材	評価の観点及び評価方法	配当予定時数	
		(1)		(2)		書くこと				読むこと				アイウエオカ	アイウエオカ	アイウエオカ						
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ				オ	カ				キ
1 学期 前半	ことばから広がる世界を感じよう	●																		情報の彫刻	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
	背後にあるメッセージを読み取ろう			●																ラムネ氏のこと	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
1 学期 後半	人物造形や心理描写に触れ、もの見方・考え方を深めよう		●		●															山月記	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
	現実を描きだす想像力を発揮しよう			●				●												記号論と生のリアリティ	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
2 学期 前半	調べとリズムをとらえて心情を考察しよう				●	●			●											死にたまふ母	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
	過去との対話を通してもの見方・考え方を深めよう		●				●													死者の声を運ぶ小舟	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
2 学期 後半	内容や解釈を自身の知見と結びつけよう	●																		建築論ノート	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
	登場人物の描写を読み取り、心情を考察し、自己と向き合おう		●	●																ころ	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
3 学期	詩に込められた思いを感じよう			●	●					●										水鏡の朝	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	
	思考の道筋をたどり、考え方を養おう	●																		化物の進化	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート	

# 国語科年間指導計画【2年文系古典探究】

■単位数

4単位

■使用教科書

高等学校古典探究(第一学習社)

■使用副教材

古文解釈のための総合力を養う 完全マスター-古典文法(第一学習社)、基礎から解釈へ 漢文必携(桐原書店)

■目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的・的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
  - (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
  - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

- (知識及び技能)
- (1) 言葉の特徴や使い方に關する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。  
イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。  
ウ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。  
エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。
  - (2) 我が国の言語文化に關する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。  
イ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。  
ウ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。  
エ 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。

(思考力、判断力、表現力等)

A 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。  
イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。  
ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  
エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  
オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。  
カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。  
キ 関心をもった事柄に關する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。  
ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。
(2) 思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉の効果的に使おうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能						思考力、判断力、表現力等						言語活動					教材	評価の観点及び評価方法	配当予定時数		
		(1)			(2)			読むこと						ア	イ	ウ	エ	オ				カ	キ
		アイ	ウエ		アイ	ウエ		アイ	ウエ	オ	カ	キ	ク										
1 学期 前半	和歌に触れ、背景事情を理解する	●																		『古今著聞集』『小式部内侍が大江山の歌のこと』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	ものの見方や考え方を深める		●																	『方丈記』『ゆく河の流れ』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	文章に現れたものの見方や考え方を理解する																			『徒然草』『世に語り伝ふること』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
1 学期 後半	漢文が日本に与えた影響を理解する																			「推戴」「知音」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	批評の目を通してものの見方や考え方を深める																			『徒然草』『あだし野の露消ゆるときなく』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	文章に現れたものの見方や考え方を理解する																			『枕草子』『すさまじきもの』『二月つごもりごろに』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
2 学期 前半	登場人物の描写を読み取り、考察する																			『史記』『瀾門の会』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	人物造形や心理描写に触れる																			『源氏物語』『桐壺』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	人間の生き方についての考えを深める。																			『史記』『四面楚歌』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
2 学期 後半	考えを広げる																			「磯中作」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	人物造形や心理描写に触れる																			『源氏物語』『若紫』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	内容や解釈を自身の知見と結びつける																			『更級日記』『源氏の五十四巻』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
3 学期	歴史に触れ、登場人物の造形を考察する																			『雑説』『鈴之囀』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	歴史に触れ、登場人物の造形を考察する。																			『大鏡』『花山天皇の出家』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	表現から心情を読み取り、文章にしよう																			『平家物語』『忠則の都落ち』	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		
	古代中国思想について理解を深める。																			孟子「何必日利」「性善」、韓非子「侵官之害」	(1)-ワークシート、定期テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りシート		

2026年度 地歴公民科		年間授業計画表				
科目名	歴史総合	単位数	2	学年・類型	2年文系	
担当者		使用教科書	歴史総合 近代から現代へ (山川)	副教材	なし	
科目の目標 (指導目標)	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。					
② 思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を身につけようとしており、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史と文化に対する関心、他国の歴史と文化を尊重することの大切さについて自覚している。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考・判断・表現について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	歴史の扉			○	○	○
	① 歴史と私たち	○日本と洋菓子	○身近な「もの」に注目して、世界の歴史との関連を理解すること			
	② 歴史の特質と資料	○台湾における砂糖の生産	○様々な資料から、どのような歴史を叙述できるかを考えさせ、理解を深める。			
	第I部 近代化と私たち	1 結びつく世界	○産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解すること	○	○	○
	2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	○産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命などを取り上げて、多面的・多角的に考察し、歴史的意義を理解し表現すること	○	○	○	
3 明治維新と日本の立憲体制	○産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○		
4 帝国主義の展開とアジア	○帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること	○	○	○		
		○近代化と現代的な諸課題	○「自由・制限」および「開発・保全」という2つの視点から、近代化と現代の諸課題について考察し、理解を深め、表現する。	○	○	○

1 学期 後半	第Ⅱ部 国際秩序の変化 や大衆化と私た ち	○国際秩序の変化や大衆化への 問い	○1～5よりテーマを選び、諸資料をもとに考察し、その内容を表現する。	○	○	○
	5 第一次世界大戦と大衆社会	○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とア メリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力 戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解すること	○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とア メリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力 戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解すること	○	○	○
	6 経済危機と第二次世界大戦	○世界恐慌、フシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動向 を理解すること	○世界恐慌、フシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動向 を理解すること	○	○	○
	7 戦後の国際秩序と日本の改革	○第二次世界大戦の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日 本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第 二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対 する占領政策と国際情勢の関係をなどを多面的・多角的に考察し表現すること。	○第二次世界大戦の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日 本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第 二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対 する占領政策と国際情勢の関係をなどを多面的・多角的に考察し表現すること。	○	○	○
	○国際秩序の変化や大衆化と 現代的な諸課題	○第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動 向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二 次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解すること	○第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動 向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二 次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解すること	○	○	○
		○「対立・協調」「平等・格差」および「統合・文化」という3つの視点から、近現 代の諸課題について考察し、表現する。	○「対立・協調」「平等・格差」および「統合・文化」という3つの視点から、近現 代の諸課題について考察し、表現する。	○	○	○
2 学期 前半	第Ⅲ部 グローバル化と 私たち	○グローバル化への問い	○1～5よりテーマを選び、諸資料をもとに考察して、その内容を表現する。	○	○	○
	8 冷戦と世界経済	○冷戦構造の成立とその展開について、米ソ、東西ヨーロッパの動向を中心に理解し、 そのなかでの日本の動向についても考察して、理解を深める。また、アジア・アフリ カなどの第三世界にも着目し、冷戦の時代について多面的多角的に考察し、理解 を深める。	○冷戦構造の成立とその展開について、米ソ、東西ヨーロッパの動向を中心に理解し、 そのなかでの日本の動向についても考察して、理解を深める。また、アジア・アフリ カなどの第三世界にも着目し、冷戦の時代について多面的多角的に考察し、理解 を深める。	○	○	○
	9 グローバル化する社会	○アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネル ギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日 本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市 場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現す ること	○アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネル ギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日 本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市 場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現す ること	○	○	○
	10 現代の諸課題	○冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散 第2章 地理歴史科の各科目の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とそ の他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結 後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	○冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散 第2章 地理歴史科の各科目の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とそ の他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結 後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	○	○	○
	○現代的な諸課題の 形成と展望	○歴史総合の学びのまとめとして、現代につながる課題を設定し、資料にもとづいて 考察して、その内容を表現する。	○歴史総合の学びのまとめとして、現代につながる課題を設定し、資料にもとづいて 考察して、その内容を表現する。	○	○	○
留意事項	本科目の履修は2学期前半までの半年間（週4時間）で実施する					

2026年度 地理歴史科 年間授業計画表						
科目名	世界史探究		単位数	2	学年・類型	2年文系・選択
担当者	使用教科書		詳説世界史(山川出版社)		副教材	ニューステージ 世界史詳覧(浜島書店)
科目の目標 (指導目標)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
②思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト、単元テスト						
② 思考・判断・表現について・・・定期テスト、単元テスト、レポート等の作成						
③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期 後 半	世界史へのまなざし 第1章 文明の成立と古代 文明の特質	1 文明の誕生	①自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係について考察し、文明誕生の基礎について理解する。 ②おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。	○	○	○
		2 古代オリエント文明とその周辺	①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		3 南アジアの古代文明	①南アジアの多様性を生み出した地理的環境について理解する。 ②南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 ③アーリア人の進入が南アジアにもたらした変化について多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		4 中国の古代文明	①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生産などに与えた影響を考察し表現する。 ②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
		5 南北アメリカ文明	①北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②中南米にさまざまな先住民文明が栄えたことを理解し、そこでの支配の在り方を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○
	第2章 中央ユーラシアと 東アジア世界	1 中央ユーラシア 一草原とオアシスの 世界	①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。 ②騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ③遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。 ④オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。	○	○	○



2026年度 地歴公民科		年間授業計画表				
科目名	日本史探究	単位数	2	学年・類型	2年文系	
担当者		使用教科書	詳説日本史(山川出版社)	副教材	日本史図録(山川出版社)	
科目の目標 (指導目標)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
② 思考・判断・表現	日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考・判断・表現について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期 後 半	1章 日本文化の あけぼの  (歴史資料と 原始・古代の展望)	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立  ○古代社会と海外との交流 ○木簡から古代国家を探る	○旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解すること ○自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現すること ○古代中国資料、金石文資料などから、日本の古代国家について考察する。 ○木簡資料について考察するとともに資料保存の重要性について理解する。	○	○	○
	2章 古墳と大和政権	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	○国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること ○中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現すること ○貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解すること。 ○地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること	○	○	○
	3章 律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	○貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解すること。 ○権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。	○	○	○
	4章 貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	○権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。	○	○	○

3 学 期	5章 院政と武士の躍進  (歴史資料と 中世の展望)	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権  ○絵画から中世社会を探る	○貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解すること ○権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。 ○時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する開いを表現すること ○絵巻物・屏風絵など中世に盛んに描かれた絵画資料をもとに、歴史を考察するとともに、資料の伝来について理解を深める。	○	○	○
	6章 武家政権の成立  7章 武家社会の成長	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化  1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	○武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解すること ○武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解すること。 ○公武関係の変化、宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること ○社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現すること	○	○	○
留意事項	本科目は、歴史総合の履修終了後の2年生2学期後半より開講され、3年生の「日本史探究(4単位)」に接続する。					

2026年度 地歴公民科 年間授業計画表

科目名	地理総合		単位数	2	学年・類型	2年文系・理系		
担当者	使用教科書		高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		副教材	地理総合演習ノート（啓隆社） 新詳地理資料COMPLETE2026（帝国書院） データブックオブザワールド2026（山川出版社）		
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> <li>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>							
評価の観点とその趣旨								
① 知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。							
② 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。							
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養おうとしているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される者としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚している。							
評価方法								
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、思考力を問う小テスト等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価等								
学習指導計画								
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点				
				①	②	③		
1 学期 前半	第1部 地図でとらえる 現代社会	第1章 地図と地理情報システム 1.地球上の位置と時差 2.地図の役割と種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆現代世界の地域構成を示した様々な地図の読みなどを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。</li> <li>◆日常生活の中で見られる様々な地図の読みなどを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。</li> </ul>	○	○			
		第2章 結びつきを深める現代 世界 1.現代世界の国家と領域 2.グローバル化する世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</li> <li>◆現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する</li> <li>◆地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する</li> </ul>	○	○	○		
1 学期 後半	第2部 国際理解と 国際協力	第1章 生活文化の多様性と 国際理解 1.世界の地形と人々の生活 2.世界の気候と人々の生活 ・モンスーンの影響を受け る地域での生活（東南ア ジア）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。</li> <li>◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。</li> <li>◆世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul>	○	○	○		

2 学 期 前 半	第2部 国際理解と 国際協力	<p>3.世界の言語・宗教 ・イスラーム(中央アジア・西アジア・北アフリカ) ・ヒンドゥー教(インド)</p> <p>4.歴史的背景 ・移民の歴史(北アメリカ) ・植民地支配の歴史(中南アフリカ) ・国家体制の変化(ロシア)</p> <p>5.世界の産業 ・産業力(アメリカ) ・経済成長(東アジア) ・地域統合(ヨーロッパ)</p>	<p>◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。</p> <p>◆世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。</p> <p>◆世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	○	○	○
2 学 期 後 半	第2部 国際理解と 国際協力	<p>第2章 地球の課題と国際協力</p> <p>1.複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>2.地球環境問題</p> <p>3.資源・エネルギー問題</p> <p>4.人口問題</p> <p>5.食糧問題</p> <p>6.都市・居住問題</p>	<p>◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球の課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。</p> <p>◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球の課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。</p> <p>◆世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	○	○	○
3 学 期	第3部 持続可能な 地域づくりと 私たち	<p>第1章 自然環境と防災</p> <p>1.日本の自然環境</p> <p>2.地震・津波と防災</p> <p>3.火山災害と防災</p> <p>4.気象災害と防災</p> <p>5.自然災害への備え</p> <p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>1.生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>◆我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</p> <p>◆様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。</p> <p>◆地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>◆生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。</p> <p>◆生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p>	○	○	○
留意事項						